

巡礼道

巡礼道の概要

巡礼道は、亀山から発する巡見道にほぼ沿って、鈴鹿の安楽峠下（現亀山市内）から員弁の坂本（現いなべ市内）あたりまで通じていた。

観音信仰の盛んな江戸時代前期ごろ、亀山市安坂山町坂本の伊勢巡礼第二十二番の鶏足山野登寺から、菰野町杉谷にある同じ札所の第二十五番引接寺、第二十六番観音寺に行く巡礼たちが通る道を巡礼道と呼ぶようになったと伝えられている。江戸時代にこの道を菰野から杉谷まで実地調査した『勢陽五鈴遺響』の著者、安岡親毅は同書に「はなはだ尋ねがたし」と記している。野を分け、林を抜け、川を渡って通るこの道は、おそらく道とは名ばかりの草むらを踏み分けて進むところもあったのだろう。

四日市市水沢町から菰野町西菰野にかけて越える峠は、富士見峠と呼ばれている。昭和8年に編纂された『水沢村誌』には「近く北勢の平野眼前に開け遙かに濃尾の平野甲信の諸山指点せられんとす。秋冬快晴の早曉この峠に立てば麗峰富士を見ることを

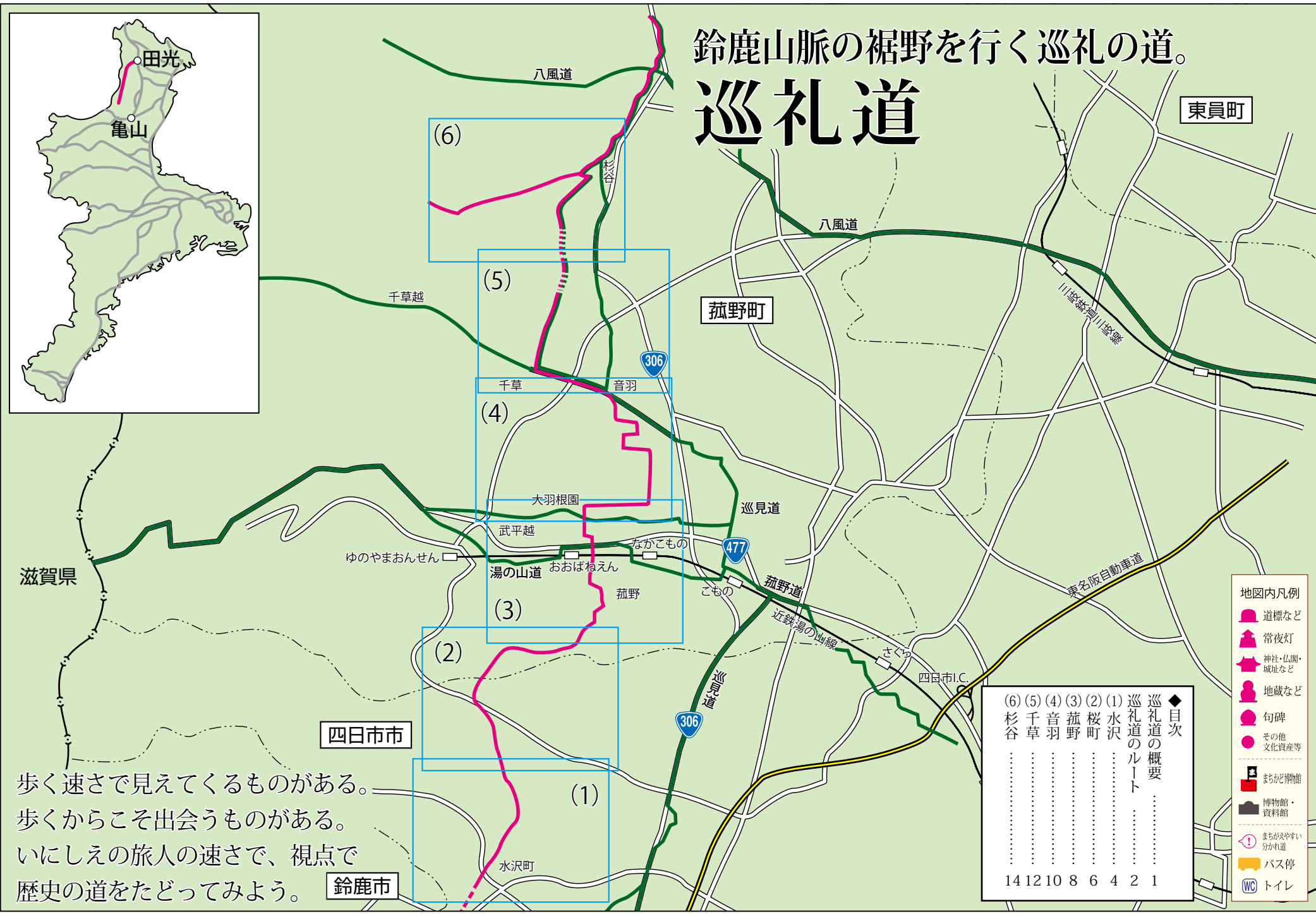
得、故にこの名あり」と記している。江戸時代菰野藩の領地だった水沢町には、もみじ谷というもみじの名所があり、景勝地の保護に努めた菰野藩の歴代藩主もよくもみじ狩に訪れた。その際、巡礼道を通った一行は、富士見峠の一本松の下でお茶を飲んで休憩したという。その場所は長らくお茶場の一本松と呼ばれていた。

巡礼道は、千草で巡見道と合流し、杉谷へ向かう。杉谷の尾高観音は、江戸時代は尾高山引接寺と称し、伊勢西国三十三ヶ所の第二十五番札所として庶民の篤い信仰を受けていた。明治に廃寺となり、現在は慈眼寺の奥の院となっている。参道には、樹齢約300年の檜の巨木が並び、神秘的な雰囲気漂う。寺伝によれば、持統天皇（687〜97）の頃、大和飛鳥の藤原京近くにあった大官大寺（今の大安寺）の諸菩薩中より仏縁により、十一面千手観世音菩薩を迎えて祀ったのが開基といわれ、古代から中世にかけて七堂伽藍をはじめ諸堂が建ち並ぶ大規模な寺院に発展したが、織田信長の兵火により焼失した。現在の六角堂は嘉永4年（1851）に建てられたもので、堂内には、約1.7メートルの等身大木彫の千手観音菩薩立像が本尊として安置されている。

※このウォーキングマップでは、巡礼道としては途中ですが、四日市の水沢から菰野の杉谷までをたずねました。



鈴鹿山脈の裾野を行く巡礼の道。 巡礼道



歩く速さで見えてくるものがある。
歩くからこそ出会うものがある。
いにしへの旅人の速さで、視点で
歴史の道をたどってみよう。

◆ 目次	巡礼道の概要	1
巡礼道のルート	水沢	2
(1)	桜野	4
(2)	孤野	6
(3)	音羽	8
(4)	千草	10
(5)	杉谷	12
(6)	杉谷	14

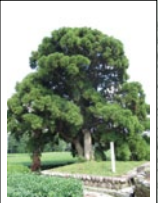
- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地藏など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(1) 水沢

(四日市市水沢西條町～水沢谷町)



8 弘法井戸



10 弘法杉



4 足見田神社



3 辻久善翁之碑



2 一乗寺



1 常願寺
水沢城跡



11 鎌谷川
一面に青い茶畑が広がるなか、青木川を渡ってさらに進むとある。このあたりを北谷という。



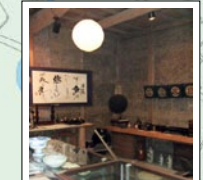
9 茶畑の風景



5 水沢池の堤
水沢町字東條の水沢小学校の東から北に進むとある。



6 地神池
南北に二つの溜池が並ぶ。

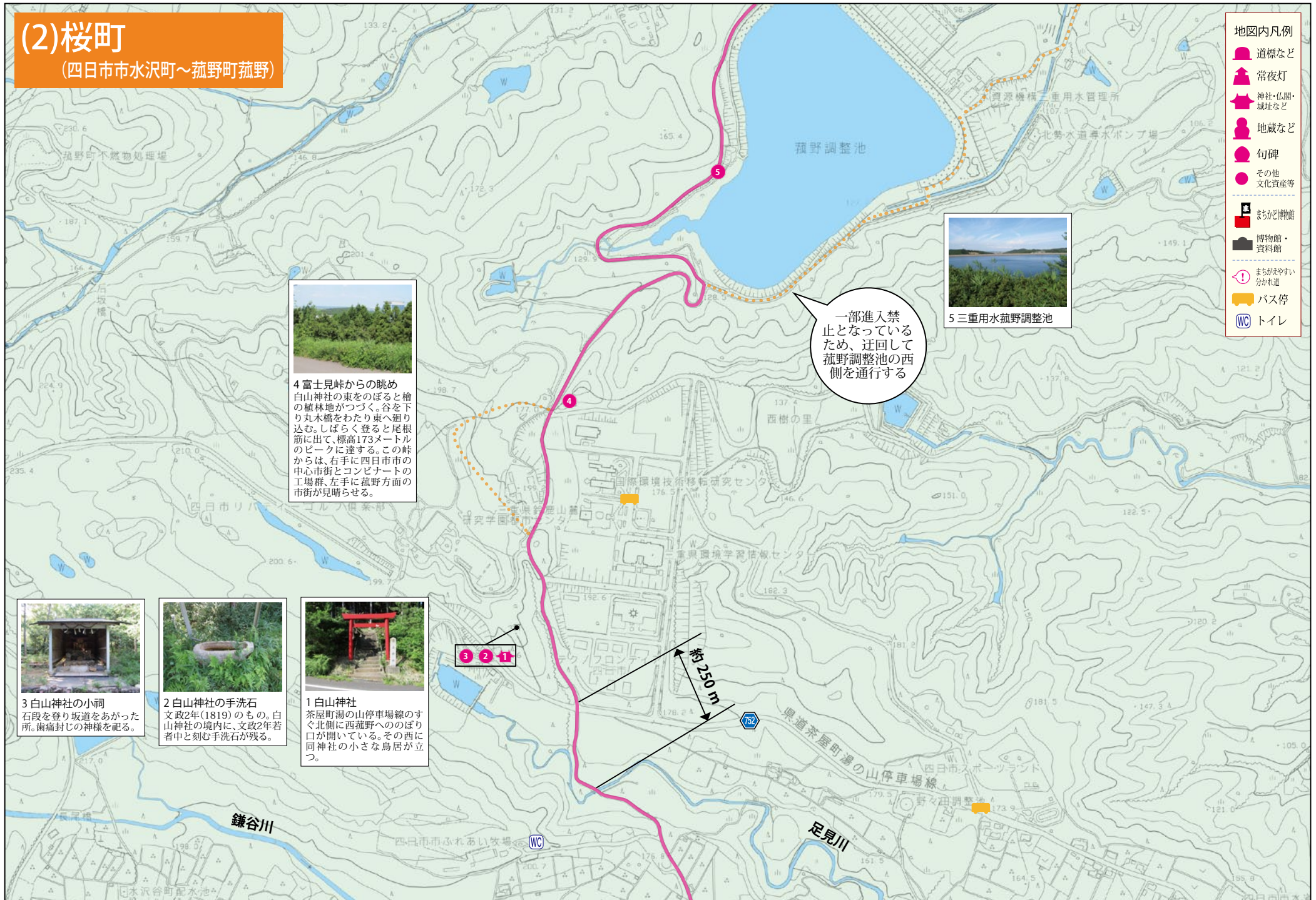


7 蔵の辻

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(2)桜町

(四日市市水沢町～菰野町菰野)



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



4 富士見峠からの眺め
白山神社の東をのぼると檜の植林地がつづく。谷を下り丸木橋をわたり東へ廻り込む。しばらく登ると尾根筋に出て、標高173メートルのピークに達する。この峠からは、右手に四日市市の中心市街とコンビナートの工場群、左手に菰野方面の市街が見晴らせる。



5 三重用み水菰野調整池

一部進入禁止となっているため、迂回して菰野調整池の西側を通行する



3 白山神社の小祠
石段を登り坂道をあがった所。菌痛封じの神様を祀る。



2 白山神社の手洗石
文政2年(1819)のもの。白山神社の境内に、文政2年若者中と刻む手洗石が残る。



1 白山神社
茶屋町湯の山停車場線のすぐ北側に西菰野へののぼり口が開いている。その西に同神社の小さな鳥居が立つ。

3 2 1

約250m

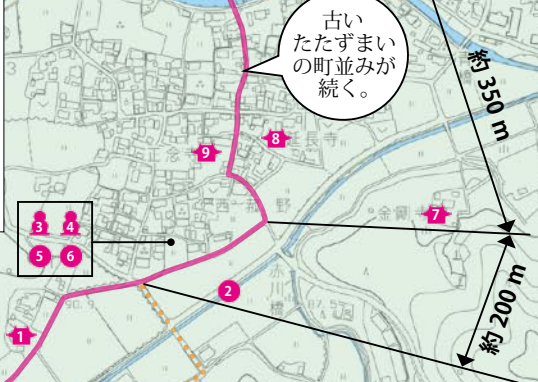
(3) 菰野

(菰野町菰野)

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



近鉄湯の山線



(4)音羽

(菰野町菰野～千草)



9 八幡神社跡地
浄正寺より東、字東雲(しのため)には八幡神社があったが、千草神社に合祀され跡地のみ残る。ここに「山の神」の碑石四基が残っている。



10 浄正寺
大永2年(1522)田福禪師が開基。現在の本堂は文化12年(1815)再建のもの。



11 里程標
大正4年(1915)のもの。巡見新道と巡見旧道の分岐点に立つ。「距津市元標十二里二十町 大正四年六月建之」と刻まれている。



6 「南無阿弥陀仏」の碑
天保2年(1831)のもの。巡礼道の東側、南山に音羽区火葬場があり、ここに同碑が立つ。



7 常夜燈
弘化5年(1848)のもの。



8 虚空蔵寺
音羽は、かつて国見岳山中にあった三獄寺の寺領だったと伝わる。虚空蔵寺は、かつて国見岳山中にあって、永禄11年(1568)信長の兵火により廃絶した三獄寺と縁がある。



3 用水路
山ノ神の碑の前を通ると現れる。



2 山ノ神の碑
三滝川北岸の松林、大字潤田の字土山にある。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



巡見道(巡見旧道)との合流地点



12 菰野町役場千種支所裏の道
川沿いに進む細い道で、東海自然歩道の看板が目印。途中から、地道になり、畑のふちをまわって県道に合流する。



13 道標
菰野町役場千種支所前にある。大正5年(1916)に千草村が立てた。「右 朝上村 杉谷田光を経て阿下喜に至る」「左 滋賀県蒲生郡甲津畑に至る。庵舎 発電所に至る」と刻まれている。



14 石碑
菰野町役場千種支所前にある。「島□□」と刻まれている。文字が読めないのので、道標か石碑かの区別が付かない。



15 千種神社
街道南側にある。



4 雑木林
用水路をわたると現れる。



5 墓碑
火葬場の森の北西の道端にある。嘉永六年(1853)、安政四年(1857)在銘の中川次夫の建立した碑。現在、風化して文字が読めない。



1 菰野町図書館郷土資料コーナー

(5)千草 (菰野町千草～杉谷)

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがやわい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



6 松林・雑木林
千草を出て朝明川に向かう途中にある。



7 朝明川



5 三味墓地
千草の集落を抜けて田んぼに出た街道の左側。以前は山の斜面の墓地だったが、現在ではきれいに整備されている。

朝明運動公園にできるまでは、一部道が
あれている



3 三岳寺の鼓楼
三岳寺の門前。中の太鼓の墨書に「勢州三重郡千種冠峰山淨安寺全擁門海貞享五年(1688)戊辰歳二月下旬」と記されている。



4 三岳寺
この寺は、もと淨安寺という名前であったが、宝永のころに三岳寺と改称している。



1 常夜燈
明治25年(1892)のもの。千草村の石工10人が鑿をふったもので、地上6.74mもの高さがあり、村の自慢であった。



2 千種城跡
県指定史跡

約 800 m

約 400 m

約 300 m



11 踏み分け道の痕跡
巡見旧道が朝明川を渡った対岸。ここから「右尾高道」の道標までの道はたどれない。この場所のみ、街道と思われる道が残る。古道は七つ塚古墳の東側を通るといふ。



10 金比羅神社
奥郷集落内。



9 寒椿「獅子頭」
街道の右側、馬島家の寒椿。「獅子頭」という名で呼ばれている。毎年11月中旬頃より咲き始め、3月頃まで美しい花をつける。県指定天然記念物。



8 道標
奥郷集落内。下部が埋もれており、「右」「左」「辻」とのみ読める。

巡見新道

焼合川

朝明川

東道千草永井線

(6)杉谷

(菟野町杉谷～田光)



13 天春静堂句碑



12 五輪塔群
尾高観音境内にある。



11 石碑
尾高観音境内にある。「覚眞靈碑」と刻まれている。



8 泥館



17 手水鉢
文化13年(1816)桜地蔵の前。



16 桜地蔵
高さ約95cm。小堂の中に祀られている。



10 尾高観音(引接寺)
伊勢西国三十三所観音霊場元25番札所、引接(いんじょう)寺の跡。同寺は明治に廃寺となり、現在は慈眼寺の奥の院となっている。本尊は千手観音立像、脇侍に役行者像を祀る。六角堂は嘉永4年(1851)に建立された。



20 慈眼寺
尾高観音の本寺。杉谷集落の西南にある。伊勢西国三十三所観音霊場元26番札所の久国山観音寺は、この寺の前身。



19 極楽橋
杉谷川にかかる橋。ここより杉谷の集落に入る。



9 石灯籠
六角堂の前に一基あり、「天和二壬戌歳(1682)六月一日石崎氏尾高山引接寺朝明郡杉谷村」と刻まれている。



26 杉谷遺跡
平安末期から鎌倉初期にかけての大規模な墓跡。当時は八角堂や阿弥陀の他、数多くの堂塔があったといわれている。県指定史跡。



18 増田園芸



5 石柱
「尾高山千手観世音菩薩」と刻まれている。



7 尾高観音参道
楡の木立がつつぎ、登っていくと尾高観音の六角堂の屋根が見える。



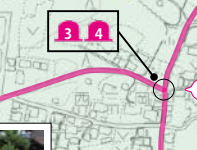
6 道標
享保15年(1730)のもの。尾高観音の参道入り口と身代わり不動への道の分岐点に立つ。「右 尾高観音道」と刻まれている。



4 道標
延宝の道標の10mほど西に立つ。「拾式・・・」と刻まれている。



3 道標
延宝8年(1680)のもの。尾高道を横断した辻の西北に立つ古い道標。文字は風化して読みにくい。「尾高観音道は十二町上 延宝八庚申歳三月十八日」と刻まれている。この辻を左に進むと尾高観音がある。



14 杉谷野・田光野の眺め
又八稲荷からのながめ。



15 又八稲荷社
文化10年(1813)に杉谷の又八が京都伏見稲荷から勧請した。



21 慈眼寺本堂の額
白く、あざやかに「観音寺」と書かれている。



28 熊野神社
翠巖寺の裏側。



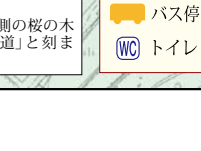
22 里程標
大正6年(1917)のもの。「三重県庁十四里四町・・・」「大正六年十月」等と刻まれている。このあたりで、巡見旧道と巡見新道が合流する。



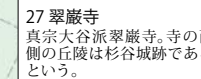
24 熊野神社の社標
中村屋の前を左に折れると熊野神社の社標前になる。ここは天白神社の社跡でもある。



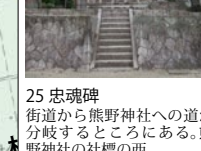
2 道標
七つ塚古墳の北側の桜の木の下。「右 尾高道」と刻まれている。



27 翠巖寺
真宗大谷派翠巖寺。寺の西側の丘陵は杉谷城跡であるという。



25 忠魂碑
街道から熊野神社への道が分岐するところにある。熊野神社の社標の西。



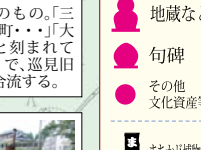
23 道標
昭和4年(1929)のもの。街道左側。「左尾高山道 右切畑道」「昭和四年三月 増田善太郎」と刻まれている。



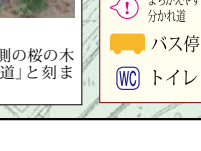
21 慈眼寺本堂の額
白く、あざやかに「観音寺」と書かれている。



28 熊野神社
翠巖寺の裏側。



15 又八稲荷社
文化10年(1813)に杉谷の又八が京都伏見稲荷から勧請した。



14 杉谷野・田光野の眺め
又八稲荷からのながめ。

巡礼道は巡見道とともに、藤原町坂本あたりまで続く。

巡見新道

約750m

約200m

約250m

約300m

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他
 - 文化資産等
 - まちなか博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ